

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部 土木局港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 芝原平 (菅野晴行)	内線	4440 (4455)
------	-----------------	---------------------	--------------------	----	----------------

事業種目	港湾事業	事業名	事業区間	総事業費	2.1 億円
		港湾利用高度化促進事業 (放置小型艇収容緊急整備事業)	姫路港 (網干沖地区)	内用地補償費	億円

所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
姫路市網干区新在家			H16	H16	H17

事業目的	事業内容
<p>放置艇対策の推進 中播磨地域のプレジャーボート総数は約1800隻あり放置艇は約1500隻存在し、航路障害、生活環境悪化等の問題が生じている。プレジャーボート利用調整計画(案)に基づき、広畑地区以西(放置艇数508隻)の早期解消を目指し既存ポートパークの増設をおこなう。また増設に併せ昨今の水上バイク等による航跡波被害を解消するため対策を行う。</p>	<p>浮棧橋伸長 3基 (係留能力 90隻) (総収容隻数459隻 549隻)</p>

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性 安全・安心	<p>放置艇解消により船舶航行の安全性が向上する。 災害時、放置艇による二次災害(流水阻害、不法占用物件流出)防止を図る。 既存棧橋の航跡波被害を解消し利用者の安全性を向上させる。</p>
地域の活性化	<p>中播磨地域プレジャーボート係留施設の充足率の向上(29 35%) 健全な海洋性レクリエーション活動の向上を図る。</p>
快適性・ゆとり	<p>快適で親水性豊かな港湾景観の向上に寄与する。 放置艇による周辺住環境(騒音、排気ガス、不法駐車、ゴミ投棄)への悪影響を解消する。</p>
その他	<p>姫路港のプレジャーボート係留施設の現況及び計画 網干沖BP 459隻供用中(空きバース232隻 収容率 50%) 90隻計画中(本事業) 木場YH 100隻供用中(収容率100%)市3セク運営 漁港、河川重複区域等において簡易係留施設約1000隻整備予定。</p>
(2)有効性・効率性 有効性	<p>H16年度、広畑地区以西の放置禁止区域を告示し、規制と誘導により秩序ある港湾利用が可能となる。 所有者の確認ができ、適正利用に向けた情報伝達、広報が円滑となる。 B/C=4.0</p>
効率性	<p>既存施設整備の際に地元調整済み。利用者からは航跡波対策の要望があり 工事に対する支障はない。 放置禁止告示後の放置艇誘導により、既存施設も含め満隻となる見込み。</p>
(3)環境適合性	<p>浮棧橋形式であるため海水の流れを阻害しない。 放置艇の整理集約により景観形成上有効である。</p>
(4)優先性	<p>放置艇対策は全国的に社会問題となっており県の重要課題であり早期推進 が必要である。 プレジャーボート利用調整計画により放置艇対策を推進する上で、放置艇 収容施設の整備促進は不可欠である。</p>